デルタ労組 SWIMMY

デルタ航空　日本支社労働組合
（第 13 期 1 号 2019.12.14 発）
http://majyutu2006.web.fc2.com/
e-mail：delta.union.jp@gmail.com

ハラスメント事件の発生 ／ KIX 整備(関空)

11 月 22 日に関西国際空港の整備部長･多和田氏より当労組組合員へのメール内容に、就業規則内のハラスメント規定に抵触する酷い言葉の影響を受け、被害者本人がシックリーブを利用して一部出勤ができなくなる事態が発生しました。現在、加害者の多和田氏は通常出勤し、被害者本人は多和田氏と会うことで精神的不安定となるため多和田氏の出社時間帯を避けて出社（通院もしています。）、この事態に「異常を感じる・・・」「仕事がやりづらい・・・」と KIX 整備部員から声も上がっていますが、皆さんは常識的な面から見て、いかが思われるでしょうか？加害者が管理職側でなければ、通常なら加害者が「自宅待機」で被害者の出社を第一に考えなければならないのに、「なぜ？」と会社側の差別的な対応への不信感を訴える意見も出て問題へと発展しました。

事の発端は EVA 航空へのメカニック 1 人での対応時間帯について、安全面上できる限り 2 名以上での対応について検討して欲しいことを被害者本人が多和田氏に伝えたメール文に対し、逆切れした状態で「EVA 航空側の 1 人での対応許可済」や「今までの KIX 整備のやり方」に成田整備部でのやり方や考え方を持ち込むことを批判した内容で、それらのメール文は KIX 整備部社員全員に送られたことでした。

文面の中には「くそ生意気な後輩」などの部下に対する侮辱的な言葉もあり、また KIX 整備部全員に送られたことで被害者への精神的圧迫は追加されているでしょう。最後には逆に「一人でシップサイドにいないで下さい。すぐに避難して下さい。」などと極端な文面となっていました。本来なら職場をまとめていかなければならない職場長として、多和田氏が適任ではないと感じざるを得ない今回の事件であり、これに似たような多和田氏の行動/言動は以前にもあったとのことでした。

当初このメールのやり取りに関して、整備部長の富塚氏が直後に（22 日）メールで対応宣言、その後、富塚氏、多和田氏、被害者の 3 人で会うこととなりましたが、多和田氏は足を組みながら横目で「悪いと思っているよ・・・。」と対応した態度に対し、被害者本人は反省の念は無いと実感、そして富塚氏の加害者第一の対応に疑念を抱き、やむなく組合のマターとすることを決意し組合へ対応の連絡が執行部にありました。

執行部は、被害者本人より報告を受け富塚氏に事実確認の電話をし、再度対応するように下記 3 点の最小限の要求し、大々的な組合対応の回避をふまえ譲歩案を提示しました。

1．　多和田氏の謝罪文を含めた誓約文の提出
2．　就業規則違反による懲戒処分の実施
3．　被害者の早期完全復職を目的とした多和田氏の配置転換

12 月頭に伝え 10 日以上の検討期間も与えたにも関わらず、ほぼ全てに否定的かつ怠慢な報告だったため、また富塚氏より HR に「聞いて」など多発発言による人事へ投げたと思われる発言も考慮し、組合側も致しかたなく「団交要請」をすることに至りました。団交開催の前に何とか被害者と接触したい会社側の連絡、つまり丸め込みたい意向が見えました。組合側は本人の意向を持って今後も対応していきますが、あまりにも今件に対する加害者中心な対応及び被害者側が自身のシックリーブを消費しなければならない状況に、早期対応をしなければと考えています。当然ながらフロントライン従業員は年末年始も勤務しますが、HR や富塚氏を含めた管理職は長期休暇に入るはずなので、早期の団交開催を要求し、異常な現況の改善を求めていきます。

団交開催 12/17 日(予定) ／ 労働審判の並行実施

年末年始の HR と富塚氏の長期休暇による今件の長期化を防止するため、また被害者側が管理職のハラスメントによる精神的疾患による自身のシックリーブ消化しなければならない現況を考慮し（WITH PAY 自宅待機扱は却下されましたこともふまえ）、更に何ら進展していかない組合側の最小限の譲歩要求案への対応を考慮し、労働審判（慰謝料請求）と並行した団交マターとなっていきます。労働審判に関しては個人の対応（組合サポート）となる予定です。会社側の安善配慮義務を怠った「使用者責任」（多和田氏の配置転換）を追及する裁判については、組織として組合対応を検討していくこととなります。結果としては、とても残念ではありますが、組合側は十分な会社側への方向性を見出す対応期間を与えました。被害者の精神的不安定をおろそかにする、とにかく会わせろ連絡への対応については、丸め込もうとする不信感を抱き、今回の決断に至りました。今後のアップデートに注視し皆さんのご協力をお願します。